

9 香取市

(佐原市・香取郡小見川町・同郡山田町・同郡栗源町の合併)

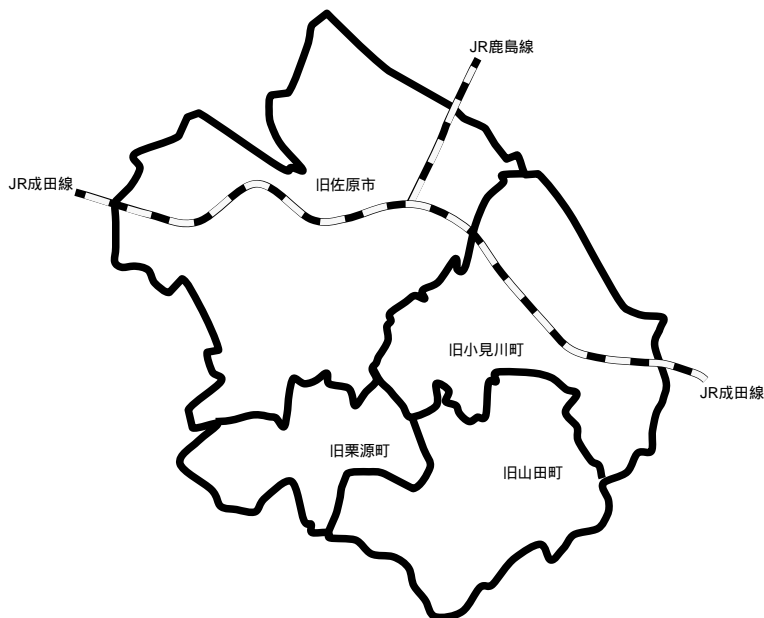


市章

美しい水辺の自然、広大な水田と里山の自然、未来に広がる青空を香取市(Katori)の頭文字「K」に重ね、鳥の羽ばたき形にシンボライズ。躍動感ある形は新市の美しく雄大な自然と未来への発展を象徴しています。【平成18年9月3日制定】

(香取市ホームページより)

巻末差込の別紙にカラー版あり。



(1) 概況

合併方式 新設方式(佐原市、香取郡小見川町、同郡山田町及び同郡栗源町を廃し、その区域をもって香取市を設置する)

合併期日 平成18年3月27日

事務所の位置 香取市佐原口2127

人口 87,109人(平成18年3月1日現在常住人口)

面積 262.31 km²

初代市長 宇井成一

初代議長 平松大建明

議員定数 30人

位置・地勢等

千葉県の北東部に位置し、利根川を挟んで茨城県と接しています。東京から70km圏、千葉市から50km圏にあり、世界への玄関、成田空港から15km圏に位置しています。

北部には水郷の風情が漂う利根川が東西に流れ、その流域には水田地帯が広がり、南部は山林と畑を中心とした平坦地が北総台地の一角を占めています。(香取市ホームページより)

(2) 合併の背景等

(合併申請書添付書類「4 廃置分合を必要とした理由」より抜粋)

4 廃置分合を必要とした理由

(1)位置と地勢

(略)

(2)人口と面積

(略)

(3)関係市町の沿革

(略)

(4)関係市町の現況

佐原市は、江戸への物資供給のための中継拠点として、醸造業や商業が繁栄したが、舟運から陸上交通に交通手段が移行し、さらに昭和40年代以降になると東に鹿島臨海工業地帯、西に成田国際空港が相次いで建設されてからは、商業都市から産業文化、観光都市へと変貌を遂げている。

特に近年では、歴史的町並みや山車祭りなどの地域固有の資源を活用し、中心市街地の再生や新たなまちづくりが展開されている。

山田町は、豊かな自然と農地が融合し、美しい農村景観をつくっている。町の基幹産業は農業で、近年では農家の集団化・企業化により高い生産性を誇っている。

現在、牧野の森整備構想により、地域住民と都市住民との交流拠点の整備が進められている。また、全国に先駆け、バイオマスの利活用による地域循環システムの実用化を図ることで、地域のバイオマスを総合的かつ最大限に活用するバイオマスタウンの構築が進められている。

栗源町は、緑あふれる豊かな自然に恵まれ、畑作を中心とする農業が基幹産業となっている。

平成14年8月には、観光農業の拠点となる道の駅くりもと「紅小町の郷」がオープンし、併設の体験農園を通して、都市と農村の交流を図っている。平成16年12月に、栗源町全域が「紅小町の郷ゆったり空間交流特区」として、構造改革特区に認定されたことと相まって、都市と農村、生産者と消費者の交流が一層進むことが期待されている。

小見川町は、利根川、黒部川流域に拓かれた町で、江戸時代には、小見川藩一万石の城下町が築かれ、舟運の要として水郷情緒を育み、有数の穀倉地帯として発展してきた。

現在、町の特性である水を生かし、水から発想し、町民自らの発想の接点を求め、河川浄化などの環境保全、生涯学習の推進、カヌー、ボート等の水上スポーツのメッカづくりに努めており、健康とスポーツの元気なまちづくりを進めている。

(5)合併までの経緯及び取り組み

(略)

(6) 廃置分合を必要とした理由

本格的な地方分権時代を迎え、その主体となる地方自治体は、自己決定・自己責任により、各種施策を展開していかなければならず、政策立案能力・行政執行能力がこれまで以上に求められている。

また、交通移動手段等の進歩により、住民の活動範囲は、飛躍的に拡大し、行政への要望も広域化の傾向にある。加えて情報化、国際化の進展により、良質かつ多種多様な行政サービスを求める声が大きくなってきている。

一方、少子高齢化・人口減少社会の到来は、税収入の減少と少子・高齢化対策をはじめとする行政経費の増加をもたらすことから、地方自治体は、これまで以上に厳しい行財政運営を強いられることになる。特にこの地域は、高齢化比率が全国や県より高い水準で推移してきており、人口も減少傾向が顕著となっている。

このようなことから、組織体制の再編整備、多様な人材の発掘・育成など、組織・人材両面における行政能力の充実・強化を図っていくと共に、根本的な行財政改革による行政経費の節減を図る必要である。しかし、本地域では、単独の市町での対応が難しい状況にあり、合併することで、基礎的自治体としての役割を積極的に果たしていく必要がある。

(3) 合併の経緯等

平成 16 年

- | | |
|--------|--|
| 3月17日 | 佐原市、山田町、栗源町の合併協議に関する会議を開催し、香取地域合併協議会準備会の設置合意 |
| 3月21日 | 佐原市、山田町、栗源町による香取地域合併協議会準備会設置 |
| 3月14日 | 栗源町において合併に関する住民説明会を開催 |
| ~4月18日 | |
| 3月22日 | 山田町において合併に関する住民説明会を開催 |
| ~28日 | |
| 3月24日 | 佐原市において合併に関する住民説明会を開催 |
| ~31日 | |
| 4月9日 | 第2回香取地域合併協議会準備会において、香取地域合併協議会の設置合意 |
| 5月6日 | 佐原市、山田町、栗源町において、議会臨時会が開催され、香取地域合併協議会設置議案の議決 |
| 5月20日 | 香取地域合併協議会設置(佐原市、山田町、栗源町) |
| 6月8日 | 小見川町長、小見川町議会議長連名で、香取地域合併協議会への参加申入れ |

- 書を会長あて提出
- 6月23日 香取地域合併調整会議において、佐原市、山田町、栗源町の協議結果を受け、佐原市、山田町、栗源町の総意として、小見川町の加入を承認
- 第2回合併協議会
- ・小見川町の加入について、承認する旨の報告
 - ・合併の方式を承認
- 7月9日 佐原市、小見川町、山田町、栗源町において、議会臨時会が開催され、香取地域合併協議会への小見川町加入に関する議案の議決
- 7月12日 新市建設計画策定のための住民意向調査を実施
- ~22日 佐原市、小見川町、山田町、栗源町の16歳以上の住民9100人を対象に調査
- 7月27日 佐原市、小見川町、山田町、栗源町が県に合併重点支援地域の指定を要請
- 7月28日 県が佐原市、小見川町、山田町、栗源町を合併重点支援地域に指定
- 8月1日 新市名称募集を実施
- ~9月15日 1位香取市1,615票 2位かとり市280票 3位水郷市193票(応募総数3,383)
- 9月14日 神崎町長に対して、1市3町の首長が香取地域合併協議会への参加を呼びかけ
- 10月5日 神崎町長から香取地域合併協議会の4首長に「現時点では合併協議に加わる判断には至らず。」との回答
- 10月26日 第6回合併協議会
- ・新市の名称を承認
- 11月22日 第7回合併協議会
- ・合併の期日を承認
 - ・新市の事務所の位置を承認
- 平成17年
- 2月7日 第10回合併協議会
- ・新市建設計画を承認
- 3月22日 合併協定書調印(山田町公民館)
- 3月25日 佐原市議会、小見川町議会、山田町議会、栗源町議会において、合併議案の議決
- 3月30日 佐原市長、小見川町長、山田町長、栗源町長が県知事に合併申請書を提出
- 4月6日 県議会において、佐原市、小見川町、山田町、栗源町の合併議案を議決
- 4月12日 佐原市、小見川町、山田町、栗源町の合併を県知事が決定、県知事から総務大臣に届出
- 5月13日 総務大臣による合併の告示

平成 18 年

3 月 27 日 合併

(4) 合併の特徴

庁舎の位置

佐原市役所（小見川町役場、山田町役場、栗源町役場は各区事務所）

議会議員の取扱い

在任特例適用（期間：平成 18 年 12 月 26 日まで。定数 76 人）

期間終了後の定数及び選挙区：30 人。選挙区は設けない。

農業委員会の取扱い

在任特例適用（期間：合併の日から 6 月間。定数 90 人）

期間終了後の定数及び選挙区：40 人。選挙区は設けるが、内容は新市において調整する。

地方税の取扱い

- 1 個人市町村民税、固定資産税、軽自動車税及びたばこ税の税率については、1 市 3 町に相違がないため、現行のとおりとする。
- 2 法人市町村民税（均等割、法人税割）については、現行のとおりとし、新市において速やかに調整する。
- 3 鉱産税については、佐原市、栗源町の例により合併時までに調整する。
- 4 都市計画税については、課税区域、税率とも現行のとおりとし、新市の都市計画と併せ調整する。
- 5 入湯税については、栗源町の例により合併時までに調整する。
- 6 個人市町村民税、固定資産税、軽自動車税及び都市計画税の納期については、合併時に統一する。

地域自治組織

合併前の佐原市、小見川町、山田町、栗源町の区域ごとに、地域自治区を設置する。

合併後の住居表示

- ・佐原市 香取市 （大字は変更なし）
- ・香取郡小見川町 香取市
- ・香取郡山田町 香取市
- ・香取郡栗源町 香取市

(5) 合併関係市町村の概況

佐原市

人口	45,865 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
面積	119.88 k m ²
沿革	昭和 26 年 3 月 15 日合体 (市制施行) 佐原町、東大戸村、香取町、香西村 (佐原市) 昭和 30 年 2 月 11 日編入 津宮村、新島村、大倉村、瑞穂村
市長	岩瀬良三 (合併時)
議長	坂本興示 (合併時)
議員定数	24 人 (合併時)
職員数	479 人 うち一般行政職 252 人 (平成 17 年 4 月 1 日)
財政規模	普通会計歳出合計 13,234,845 千円 (平成 16 年度決算)

小見川町

人口	25,336 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
面積	61.84 k m ²
沿革	昭和 26 年 4 月 1 日合体 小見川町、豊浦村、森山村、神里村 昭和 30 年 2 月 11 日編入 良文村
町長	岩山豊彦 (合併時)
議長	池田健 (合併時)
議員定数	20 人 (合併時)
職員数	238 人 うち一般行政職 181 人 (平成 17 年 4 月 1 日)
財政規模	普通会計歳出合計 7,614,673 千円 (平成 16 年度決算)

山田町

人口	10,729 人 (平成 18 年 3 月 1 日現在常住人口)
面積	51.54 k m ²
沿革	昭和 29 年 8 月 1 日合体 山倉村、八都村、府馬町
町長	高岡顯尚 (合併時)
議長	木内正直 (合併時)
議員定数	18 人 (合併時)
職員数	117 人 うち一般行政職 86 人 (平成 17 年 4 月 1 日)
財政規模	普通会計歳出合計 3,666,723 千円 (平成 16 年度決算)

栗源町

人口	5,179人（平成18年3月1日現在常住人口）
面積	29.05 k m ²
沿革	大正13年4月10日（町制施行）
町長	齋藤豊（合併時）
議長	高木良助（合併時）
議員定数	14人（合併時）
職員数	74人　うち一般行政職48人（平成17年4月1日）
財政規模	普通会計歳出合計　2,191,666千円（平成16年度決算）



旧佐原市役所（現香取市役所）



旧小見川町役場（現香取市小見川区事務所）



旧山田町役場（現香取市山田区事務所）



旧栗源町役場（現香取市栗源区事務所）